

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 田原西 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

- | | |
|------|-----|
| ① 国語 | 38人 |
| ② 算数 | 38人 |
| ③ 理科 | 38人 |

5 留意事項

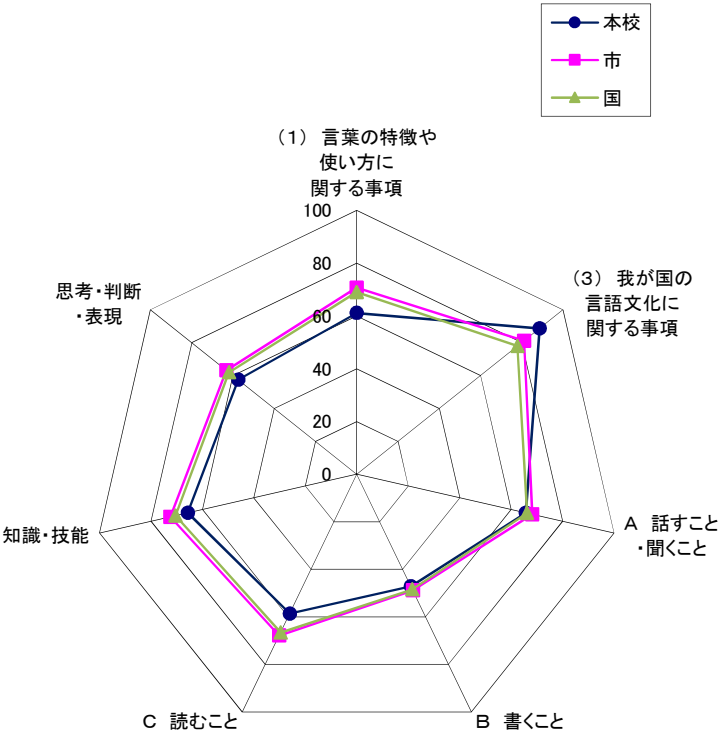
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立田原西小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	61.1	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	88.6	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	65.7	68.2	66.2
	B 書くこと	47.1	48.9	48.5
	C 読むこと	58.6	67.9	66.6
観点	知識・技能	65.7	72.5	70.5
	思考・判断・表現	57.5	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

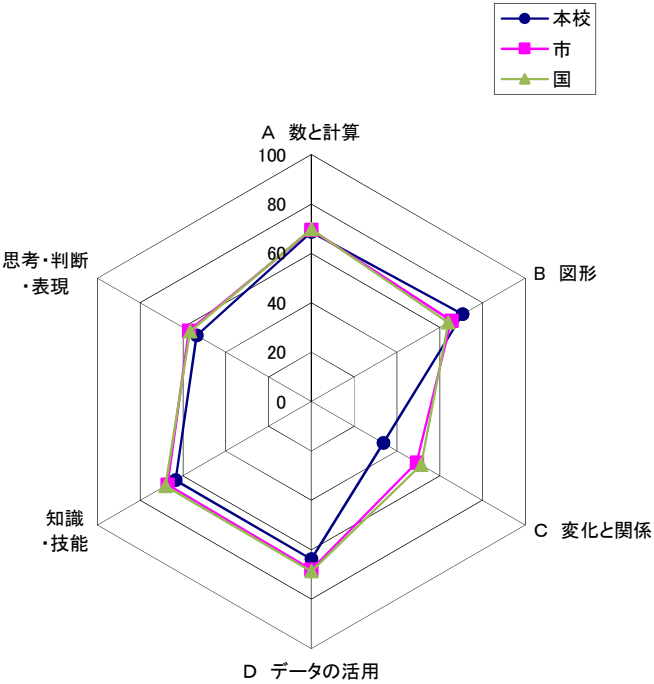
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える問題では、全国や県の平均を上回っている。 ●漢字の問題は、どの問題も全国や県の平均を下回った。特に日常生活で書いたり話したりしない言葉の正答率が低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・「受け止める言葉」や「考えをつなぐ言葉」を掲示し、繰り返し指導してきた効果が表れたものとする。引き続き取り組んでいく。 ・日常生活であまり使わない言葉については、漢字を使った短文作りなどに取り組み、定着を図る。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く問題は、全国や県の平均を上回っている。	・引き続き、書写に関する指導事項が身に付くよう指導する。
A 話すこと・聞くこと	○相手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える問題の正答率は全国や県の平均よりやや高く、85%を超えている。 ●話合いで出た言葉や内容を取り上げて、自分の考えをまとめる問題では、全国や県の平均をやや下回っている。	・国語だけでなく、各教科で話合いの活動を多く取り入れ、話し手・聞き手、それぞれの立場の考えを理解し合う経験を積ませる。 ・話合い活動の際には、メモを取りながら話を聞き、自分の考えをまとめる活動を取り入れる。
B 書くこと	○文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える問題では、県の平均を上回った。 ●書かれた文章のよさを見つけ、文中から言葉や文を取り上げてよさをまとめる問題では、全国や県の平均を下回っている。	・日常生活の中で、授業の振り返りや短作文など書く活動を多く取り入れ、キーワードを入れたり字数制限を設けたりして条件に合う文章を書けるように繰り返し指導していく。 ・書いて終わりではなく、自分の書いた文章のよさを見つけ、見つけたよさを人に伝えたり振り返りで書いたりする活動を取り入れる。
C 読むこと	○登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える問題では、全国や県の平均を上回った。 ●物語の内容を捉え、人物像や物語の全体像を具体的に想像する問題では、全国や県の平均を大きく下回った。	・物語を読む際には、全体を一文で表したり、場面ごとに内容を要約したりする活動を行い、物語の全体像を捉えられるよう指導する。 ・様々な分野の本に親しむことができるよう、日々の読書を奨励したり、図書館司書と連携した読書活動を取り入れたりして、より充実した読書体験をさせることで、読解力を高めていけるようにする。

宇都宮市立田原西小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	68.6	69.5	69.8
	B 図形	70.7	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	33.6	49.3	51.3
	D データの活用	63.8	68.0	68.7
観点	知識・技能	63.5	67.3	68.2
	思考・判断・表現	53.6	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

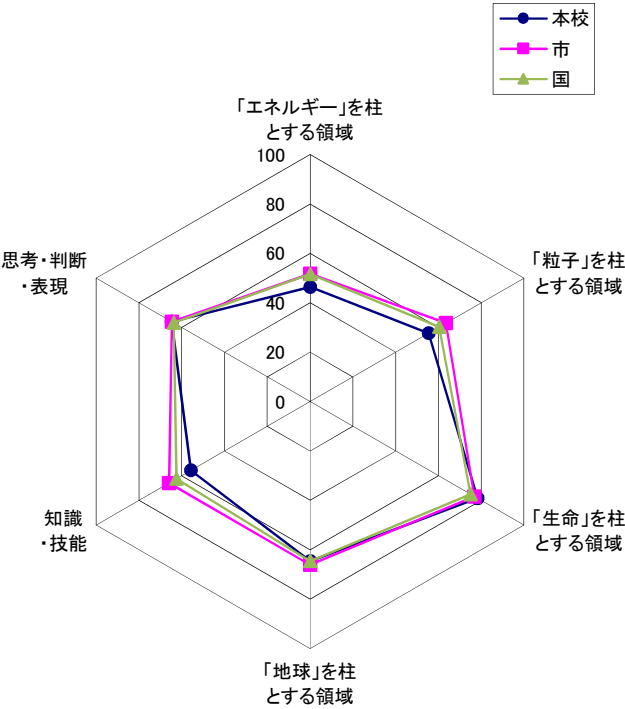
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は全国や県をわずかに下回っている。 ○被除数に空位のある整数の乗法の計算では、正答率が9割を超え、全国や県を上回っており理解が図られているといえる。 ○二つの数の最小公倍数を求める設問では、正答率が8割で全国や県の正答率を上回っている。 ●示された場面について、除法で求められる理由を記述する設問では、正答率が6割を超えているが、全国や県を下回っている。 ●示された場面において、見積もりをするために、数の処理の仕方を考察する設問では、正答率が全国や県と同等だが3割と低い。	・基礎基本の学習に力を入れるとともに、問題解決型の問題を取り上げ、いろいろな形式の問題に取り組ませることで、問題や答え方の形式への理解を図る。 ・日常生活の中で生じた問題を解決できるよう、生活と結び付けた場面や問題を提示するなど、工夫して指導する。問題場面を考察し、根拠を明確に説明するための言葉や式を用いた記述をする経験を授業の中で取り入れていく。
B 図形	平均正答率は全国や県を上回っている。 ○正三角形の性質を基に、正三角形を描けるように正しいプログラムに書き直す設問では、正答率が6割で全国や県を大きく上回っている。同じように、プログラムと図形をむすびつけて考える設問では、全国や県を上回っているか同等である。	・図形の作図は、繰り返し練習することで定着が図れるようにする。また、児童が描きやすい方法だけで作図するのではなく、条件のある作図に取り組ませ、様々な方法で作図する力が身に付くように指導する。
C 変化と関係	平均正答率は全国や県を下回っている。 ●百分率で表された割合を分数で表したり、百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めたりする設問では、正答率は5割で全国や県を下回っている。 ●数量が変わっても割合は変わらないことを問う設問では、正答率が1割以下と全国や県を大きく下回っている。 ●二つの数量が比例していることから、未知の数量の求め方と答えを記述する設問では、正答率が3割以下と全国や県を大きく下回っている。	・割合の問題では、文章を正確に読み取り、分かっていることや聞かれていることを整理できるように指導していく。その際、テープ図や表に表す力が身に付くように指導することで、考えを明確にできるようにしていく。 ・自分の考えを図や言葉で説明する機会を多く設けるために、小グループで学習するなど学習形態を工夫する。
D データの活用	平均正答率は全国や県を下回っている。 ●表の全体と部分の関係に着目し、空欄に当たる数を求める設問や目的に応じてデータの特徴を捉える設問では、正答率がそれぞれ7割と6割で、全国や県をわずかに下回っている。 ●目的に応じてグラフを選択し、必要な情報を読み取る設問では、正答率が6割以下と全国や県を下回っている。	・表の中の数値がどんな意味をもつのか、問題文から読み取れることを整理したり、書き込んだりして理解が深められるように指導する。 ・グラフのどの部分に着目したのか説明する活動を取り入れる。算数だけに限らず、他の教科でもグラフや表から読み取れる情報を確認するなど繰り返し指導する。

宇都宮市立田原西小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	46.4	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	55.4	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	78.3	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	64.6	66.1	64.6
観点	知識・技能	55.7	65.9	62.5
	思考・判断・表現	64.7	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	エネルギーに関する4つの設問の平均は県・全国を下回った。 ○鏡で跳ね返した日光の位置が変化していることを基に、続けて同じ条件で実験するための方法を考えて書く問題では正答率が県や全国を約4ポイント以上、上回っている。一つの結果から新たな問題を解決する糸口を考える力がついてきていると考えられる。 ●鏡を使って任意的に光を当てる方法を選ぶ問題では県の正答率の約半分であった。 ●光の直進性についての理解が十分でなかった。	・体験活動を十分に行うことで物の性質や特徴を実感できるように指導することが必要。特に光や音など、視覚や聴覚を主として感じ取る内容では、触感による温度差や振動などについても理解を深める工夫も授業に取り入れるようにする。
「粒子」を柱とする領域	粒子に関する5つの設問の平均は県・全国を下回った。 ○水溶液が凍る温度を見だし、予想を基に問題に対するまとめを選ぶ問題では県・全国の正答率を約6ポイント上回った。結果と分かったことを区別して捉え、分かったことを自分なりに表記する授業形態の効果が現れたと思われる。 ●メスシリンダーとスポイトを使って水を量り取る問題では県・全国の正答率を約10ポイント下回った。 ●メスシリンダーの名称を答える問では県・全国の正答率を下回った。	・実験器具の使い方については、安全第一に指導しているが、その次に、器具の名称を正確に覚えさせる指導が必要。併せて、必要器具のを決められた方法で正しく使うことについて、教科書を基本にして、繰り返し操作しながら体験的に覚える授業の展開を再度確認し、技能習得について再指導をしていく。
「生命」を柱とする領域	○本校の特徴でもある自然体験をもとに、昆虫の育ち方とエサについて(カブトムシ)全国平均から11ポイント上回っている。知識だけでなく、どうやったら育つかなどの思考判断が日常から行われていると考えられる。 ○予備知識があることで指導事項の定着が図られていると考えられる。 ●昆虫の体のつくりについて、正答率が県と全国を下回った。	・昆虫の体のつくりについては透明ケースに入れて下から観察したり、実際に触れて地面との接触面をひっくり返して観察したりする経験を多くさせる必要がある。 ・体のつくりを書き込むワークシートが多数あるので様々な昆虫の体のつくりをスケッチすることやスケッチに注釈を書き込む作業などをさせて、具体的な部分の名称とつくりを覚えるように指導する。
「地球」を柱とする領域	地球に関する4つの設問の平均は県や全国と同じであった。 ○1日の気温の変化について折れ線グラフから分析し、それを表現した場合の文面を想起し問題を解くことができている。 ●一つの結果を連結させて一定期間で観察した場合、複数の事象を妥当な表現で特定された事象と捉えることが難しかった。 ●空気中に水蒸気があり、それは水が気体になって存在しているものであるという実感が持てていない。	・複数のデータを分析する際に、限定された考察ではなく、傾向として捉える力を養う必要がある。特に、自然界で起きている事象においては全く同じことは厳密には起こりえないので「似ているもの同士を同じ結果と見なす」考え方を身に付けさせていくことが重要である。 ・空気中に存在する水の粒が「水蒸気」と呼ばれていることについて再度、氷水とコップを使って体験的に実感させ、知識の定着を図る必要がある。

宇都宮市立田原西小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。」に対する肯定的割合が、持っている児童の97%が守られており、県や全国の平均に比べて高い。インターネットを安全に使う方法を児童に日々指導し、家庭への啓発を行っている効果だと思われる。

○「自分には、良いところがあると思いますか」に対する肯定的割合が、県に比べて14%高い。普段の授業でも、友達の話を聞きながら聞くなどの肯定的な行動を進んで取り組んでいる効果が表れている。

○「人が困っているときは進んで助けていますか。」に対する肯定的割合が県の平均より高く、「友達と協力するのは楽しいと思いますか。」に対する肯定的割合も県の平均よりも高い。助け合い、認め合いながら生活できていると考えられる。

○「読書は好きですか」に対する肯定的割合が、県や全国の平均よりも高い。図書館司書によるブックトークや、学校全体で丁寧に読書指導を行っている効果が表れている。

○「自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありますか」に対する肯定的割合が、県や全国の平均よりも高い。自然豊かな場所に家や学校があることが影響していると思われる。

○「国語の勉強は大切ですか」など、国語科に対する肯定的回答は、県や全国と比べて同程度か上回っている。児童たちの国語への意識が高いことが伺える。

●「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む)をしますか。」に対し、2時間以上しているという回答が57.9%で県の平均より8.3%上回った。4時間以上していると回答した割合も県の平均より3%上回っており、日々のその時間が多いことが分かった。視力の低下や寝る前に行う影響など、家庭と協力し、健康についての理解を深めていきたいと思う。

○●「算数の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的回答は、県や全国と比べて9%上回っているが、「普段の生活の中で活用できないか考えますか」に対しては、約16%も低い。授業で学んだことを実生活に生かせる場面を、知る機会を増やしていく必要がある。

宇都宮市立田原西小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・自らの思いを表出し、学び合う楽しさを味わう児童を育成する。	・タブレットや思考ツールを活用して思考の可視化を図り、自分の考えを明確にして話し合いができるよう取り組んでいる。 ・年度始めに家庭学習メニューを配付し、自主学習ノートの秀作を掲示したり、家庭学習強化週間を年4回実施したりして、家庭への啓発を図っている。	・「学級の友達の間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」に対する肯定的割合が、県や全国の平均に比べて高い。 ・家で自分で計画を立てて勉強しているかについて、肯定的割合が県や全国の平均より高い一方、家庭学習の時間は県や市の平均より短い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・国語、算数、理科のすべてにおいて記述式の問題の正答率が県の平均を下回っており、自分の考えを文章で表現することが苦手な児童が多く見られる。	・全教科において感想だけでなく、分かったことや自分の考え等を記述する場を意図的に設けて、書くことへの抵抗感を軽減する。	・朝の学習の内容を工夫し、基礎基本の定着に加え、語彙、記述問題などに取り組む。また、新聞のニュースに触れるなど、家庭での取り組みに差が見られる部分を補っていく。 ・授業の振り返りの場を設け、必要な学習用語や文字数などの条件を整えて書くよう指導を行う。